

# 『東北圏だより』



## ラグビーワールドカップ2019™日本大会で、復興の姿を世界へ！

岩手県

アジアで初開催となるラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会の12開催都市の1つに、東日本大震災津波の被災地である岩手県釜石市が選ばれています。

釜石市は、「自然に恵まれた魚の街」、「近代製鉄発祥の鉄の街」、そして「ラグビーのまち」です。

「北の鉄人」と呼ばれ、日本のラグビー史に偉大な足跡を残した新日鐵釜石ラグビー部は、昭和54年から昭和60年までの7連覇を含み、通算8度の日本一に輝きました。

その後の産業構造等の転換や東日本大震災津波による影響により、人口の減少傾向が続く中、釜石市での大会開催は、様々なレガシーを次世代の子どもたちへ継承し、地域の一層の発展へと繋げていく大きな役割を担っています。



▲ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会設立総会での鏡開き

岩手県では、今年度新設された文化スポーツ部にラグビーワールドカップ2019推進課を設置し、大会成功に向けた国内外へのPR活動や受入態勢の整備等に県を挙げて取り組んでいます。

4月には、岩手県及び釜石市を含む146の関係者から構成される「ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会」を設立し、現在、4つの専門部会（①広報・イベント、②交通輸送・宿泊、③ボランティア・おもてなし、④警備・消防・医療救護）において、本格的に開催準備を進めています。

今年度は、釜石市開催の認知度を高めるため、盛岡さんさ踊りやラグビー日本代表選など、県内外で様々なPRを行ってきました。

10月7日には、盛岡市のいわぎんスタジアムで大会2年前イベントを開催し、優勝トロフィー（ウェブ・エリス・カップ）除幕式やラグビー女子日本代表トークショーなどの様々な催しが行われ、大いに盛り上がりを見せたところです。



▲2年前イベント（ラグビーワールドカップ優勝トロフィー除幕式）

今回の釜石市での開催は、東日本大震災津波の際に世界中から頂いた支援への感謝の思いと、復興の姿を国内外に発信する絶好の機会であり、東北エリアの関係機関と連携しながらオール岩手で大会成功に向けて取り組んでいきます。

釜石市の釜石鶴住居復興スタジアム（仮称）で行われる試合は、9月25日のフィジー 対 アメリカ地区2位、10月13日のアフリカ地区1位 対 敗者復活予選優勝チームに決まりました。ぜひ岩手に足を運んでいただき、世界最高レベルのラグビー選手が繰り広げる熱戦を釜石で観戦してください！

ラグビーワールドカップ2019™日本大会公式チケットサイト

○最新のチケット情報はこちらから

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

## 平成29年度東北都市景観協議会が開催されました

東北地方整備局

東北地方の都市景観形成都市で構成する東北都市景観協議会は、都市景観に関する施策の推進及び各市町村の情報交換を図ることを目的として毎年開催されており、今年度は、山形県長井市において10月26日から27日にかけて開催されました。

会議では、長井市長のあいさつに続き、国土交通省から景観計画の策定状況や景観行政の最近の動向などについて話題を提供しました。また、東北芸術工科大学の山畑教授から、「つながる景観」と題して、「歴史や文化といったその地域の背景を把握し、景観資源を踏まえた地域のストーリーを見出すことで、初めて地に着いた景観になる。地域住民自らが誇りを持ち、楽しんで生活していける景観をつくらねばならない」というお話を頂きました。

今回の開催都市である長井市からは、自然・歴史・人々の生活や生業による良好な景観を未来へ伝え残すため、(文化財保護法に定める)重要文化的景観の選定申出を目指した取り組みについての事例発表がありました。

2日目は、ながい百秋湖(長井ダム湖)を訪れ、眺望景観やダム建設の歴史等の説明を受け、また、中心市街地にある「文教の杜」や「あら町エリア」を訪れ、歴史的建造物の保存や町中を流れる水路を生かした文化的景観を通じたまちづくりの取り組みの状況を見学しました。

本会議は、景観計画策定や景観整備事業に取り組む東北管内の市町村にとって、大いに参考になりました。



▲東北都市景観協議会の様子



▲ながい百秋湖(長井ダム湖)



▲丸大扇屋(山形県指定有形文化財)



▲やませ蔵美術館

## 編集後記

今年も残すところ2ヶ月を切りました。気象庁の向こう3ヶ月の予報では、北日本の気温は平年並か高い見込みとのことでしたが、11月中旬に入り朝晩はコートが手放せない季節となりました。各構成機関の皆様におかれましては、体調管理に気を付け風邪など引かずに年末を迎えられますよう、ご自愛下さい。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。